

事業所名

児童発達支援センターあゆむ（放課後等デイサービス）

支援プログラム（参考様式）

作成日

令和8年

3月

26日

法人（事業所）理念		発達障がいや適応等の課題のある子どもたちや家族への支援を通して、障がいの有無に関わらず、本人や家族、地域の方々の誰もが安心して生活できる社会づくりに貢献していきます。						
支援方針		地域の障がいのある未就学児の療育支援及び児童生徒の放課後の学童支援。また、その幼児・児童・生徒の保護者に対しての相談支援、幼児施設や学校等への訪問支援等、児童生徒の社会参加のために必要だと思われることを支援する。						
営業時間		9時	30分	18時	15分まで	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 日々変わる個々の健康状態や特性に配慮したうえで、職員が共通した対応が出来るように努める。 放課後の活動を通して気持ちをリフレッシュできる様な支援を心掛ける。一人ひとりの気持ちに寄り添いながら一緒に考え、支援する事を大切にしていく。 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 外での活動や周辺への散歩等に対し、安全を確保しながら楽しむにはどうするかを第一に考え活動する。 楽しく身体を動かすため、場所や道具等を整え、伸び伸び活動できるようにする。（園庭での活動や室内でのダンス活動等を児童の興味ある活動を取り入れている） 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 事前に環境を整えながら、児童が自ら楽しんで活動できる事で得られる体験（成長段階に合わせたプランニング体験、成功体験）につながるような支援を模索していく。 取り組みたい活動が見つからない場合、本人のこれまでの活動状況を振り返り支援側からのアプローチを行う。 個別活動では、個々の特性に応じて今、その児童が何を求めているか見極め、タイムリーな支援を行う。 集団活動では、遊びを通じてルールや約束事を守る大切さを学べるよう支援を行う。 放課後等デイサービスで行う活動（個別活動・集団活動）一つひとつが、子供たちの成長の土台につながる目的を持つことを職員間で共有する。 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う中で「話すこと」や「聞くこと」を大切にする。児童から思いや考えを引き出すための「ちょっと待つ姿勢」を大切にしている。 必要時、本人の思いや考えを言葉や会話に乗せるお手伝いをする。 一人ひとりの成長・発達段階や特性、気持ちの状態に合わせた日々の支援を検討しながら、コミュニケーションスキル向上に努めている。 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 個々の気持ちを共感する事で、安心できる存在・場所になるように心がける。 相手の気持ちを考える事、自分はどのように行動すべきかを経験を通して学べる場所となる様にしている。 気持ちの整え方やトラブルの解決方法を一緒に考える事で、様々な場面で実践できる様に意識して関わりを持つ。 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 困ったことや不安等をいつでも相談できる環境を整える。 保護者等から相談があった際に傾聴し、共に考える姿勢を持つ。 適切な対応とアドバイスができるように職員も学びを深める。 		移行支援		<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービス以外の場面でも力を発揮できるような支援内容を個々に合わせて検討する。 児童の5年後・10年後を見据え、自立した余暇活動に向けたアプローチを意識している。その為職員間や保護者間での情報共有を密に行う。 		
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 学校・特別支援学校・学童クラブ等の関係機関、それ以外の機関とも連携を行う。 地区の文化祭に、作品や日々の活動の様子を紹介し、事業所の活動を知ってもらうための取り組みをしている 自立支援協議会にも積極的に参画し情報の共有を行う。 		職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 外部研修の活用、日々のOJTに根拠を持ち取り組む。 法定研修、事業所運営上必要な研修を受講する。 法人の目標として「1人1研修」を掲げて取り組んでいる。 		
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇時には計画的に行事を提案し実施する。 地区の文化祭へ出展する事を見越した工作活動。 子ども達の意見等を取り入れた活動を、より安全に楽しく実施できるように検討する。 農作業の体験を通して「育てる・収穫する・食べる」を楽しみながら学び、収穫した作物（ジャガイモなど）で、おやつ会を開く年間活動を計画している。 避難訓練（年2回） 						

事業所名

児童発達支援センターあゆむ いいで (放課後等デイサービス)

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和8年

3月

26日

法人(事業所)理念		発達障がいや適応等の課題のある子どもたちや家族への支援を通して、障がいの有無に関わらず、本人や家族、地域の方々の誰もが安心して生活できる社会づくりに貢献していきます。						
支援方針		地域の障がいのある未就学児の療育支援及び児童生徒の放課後の学童支援。また、その幼児・児童・生徒の保護者に対しての相談支援、幼児施設や学校等への訪問支援等、児童生徒の社会参加のために必要だと思われることを支援する。						
営業時間		9時	30分から	18時	15分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態等の把握を行う。 本人にとって放課後の心地よい居場所となり、心身の力が蓄積できよう環境を整える。 しっかりと活動を行う環境を設定する。 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 外活動や周辺への散歩等に対し、自主性を第一に捉え支援する。危険回避を中心に見守ることに重点を置き対応する。 身体を動かすために環境(場所、道具等)を整え、楽しく伸び伸び活動し感覚を養う。 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> やらされている状態ではなく、自ら楽しんで活動できる環境等を見つける。 取り組む活動を自分で決め、必要な物品があれば自分から必要であることを伝え用意してもらい受け取る、一連の流れを経験する。 取り組みたい活動が見つからない場合、本人のこれまでの活動状況を振り返り支援側からのアプローチを行う。 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う中で「話すこと」や「聞くこと」を大切にする。思いや考えを言葉に乗せることに重点を置き、根気よく待つ。 本人の思いに共感し、代弁し、モデルを示すようにする。 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動で生まれるいざこざやもめ事に対し、必要以上の介入をせずに見守る。 居心地の良い人間関係を構築するための方法を、利用者個々に合わせて対応する。 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 困ったことや不安な事等をいつでも話せる土壌を構築する。 必要時に相談できる体制を整える。 保護者等から相談があった際、傾聴する技術を養い適切な対応とアドバイスができるように職員も学びを深める。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> 生活の各ステージに適応できるようなプログラムを個々に合わせ作成し実施する。 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 学校、特別支援学校、関係機関とも必要性に応じて連携を行う。 自立支援協議会にも積極的に参画し情報の共有を行う。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 外部研修の活用、日々のOJTに取り組む。 法定研修、事業所運営上必要な研修を受講する。 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇時には計画的に行事を提案し実施する。 子ども達の意見等を取り入れ、季節行事を適切に運営する。 保護者同士につながりや情報交換の場として、定期的に「家族の集い」を開催する。 						

事業所名

あゆむZIBUN LABO (放課後等デイサービス)

支援プログラム (参考様式)

作成日

令和8年

3月

26日

法人 (事業所) 理念		発達障がいや適応等の課題のある子どもたちや家族への支援を通して、障がいの有無に関わらず、本人や家族、地域の方々の誰もが安心して生活できる社会づくりに貢献していきます。						
支援方針		地域の障がいのある未就学児の療育支援及び児童生徒の放課後の学童支援。また、その幼児・児童・生徒の保護者に対しての相談支援、幼児施設や学校等への訪問支援等、児童生徒の社会参加のために必要だと思われることを支援する。						
営業時間		9時	00分	17時	45分	送迎実施の有無	あり	なし
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態やアレルギー反応、服薬の有無等の把握を行う。 本人にとって心地よい居場所となり、心身の力が蓄積できるように環境を整える。 本人がやりたい活動を職員も一緒に行い、ストレスを発散できるように環境を設定する。 						
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> 運動に繋がる活動を積極的に取り入れる。 外活動や周辺への散歩等では、安全を確保し自主性を育むことができるように活動する。危険予知が行えるよう見守りや声掛けに重点を置き対応する。 身体を動かすため楽しく伸び伸び活動できるように環境 (場所、道具等) を整える。 						
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> 活動前に自分で一日のスケジュールを決め行動する。 PC使用の活動時は、時計を用いて時間を確認しながら行う。 自ら楽しんで活動できる環境等を見つける。 取り組む活動を自分で決め、「必要な物品があれば自分から必要であることを伝え、用意してもらい受け取る」という、一連の流れを経験する。 取り組みたい活動が見つからない場合、本人のこれまでの活動状況を振り返り支援側からのアプローチを行う。 						
	言語 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 活動を行う中で「話すこと」や「聞くこと」を大切に。思いや考えを言葉に乗せることに重点を置き根気よく待つ。 トラブルなどの際は、本人や相手の思いや考えを代弁することで、相手の気持ちを理解したり「どう声をかけてよいか。」などのコミュニケーション力を身に付けたりできるように声掛けをする。 絵、文字、数字を書いたりする時間を決め、本人の気持ちやペースに合わせ学習に取り組む環境を整える。 						
	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> 集団活動で生まれるいざこざやめ事に対し、必要以上の介入をせずに見守る。 居心地の良い人間関係を構築するための方法論を、利用者個々の特性に合わせて対応する。 自分の思いが通らず気分不安定が見られた時は、本人の気持ちに寄り沿った声掛けを行ったり環境を変えたりするなどの対応を行う。 						
家族支援		<ul style="list-style-type: none"> 困ったことや不安等をいつでも話せる保護者との関係作りや体制作りを行う。 保護者等から相談があった際、傾聴する姿勢を心がけ適切な対応とアドバイスができるように職員も学びを深める。 			移行支援		<ul style="list-style-type: none"> 現在の本人の課題や困り感を見極め、将来を見据えたこれからの生活において適応できるようなアプローチを個々に合わせて計画し、支援を実施する。 途中からでも学校に行きやすい時間割や環境の設定を学校と検討する。 	
地域支援・地域連携		<ul style="list-style-type: none"> 学校、関係機関とも必要により連携を行う。 自立支援協議会にも積極的に参画し情報の共有を行う。 スクールカウンセラーと連携する。 			職員の質の向上		<ul style="list-style-type: none"> 法人内で法定研修を実施する。 法人の目標として「1人1研修」を掲げて取り組んでいる。 スタッフ会議でケース検討や伝達研修を実施する。 	
主な行事等		<ul style="list-style-type: none"> 長期休業時には計画的に行事を提案し実施する。 不登校児童・生徒に対して、長期休業に限らず午前中など季節に合った活動を提案し、実施する。 農作業の体験を通して「育てる・収穫する・食べる」を楽しみながら学び、収穫した作物 (きゅうり、トマト、ラデッシュなど) で、おやつ会を開く活動を計画している。 避難訓練 (年3回) 						